

- 問1 大阪府の百舌鳥・古市古墳群に含まれる、三重の濠が巡らされた日本最大の前方後円墳の名称と、それが登録されているユネスコの区分の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 大仙古墳 (世界文化遺産) 2. 箸墓古墳 (世界文化遺産) 3. 五色塚古墳 (世界文化遺産) 4. 大仙古墳 (世界自然遺産)
- 問2 古代の日本と朝鮮半島の国々との関係について、百済が大和政権に与えた影響を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
1. 大和政権と結びつき、仏教や儒教などの大陸文化を伝える窓口となった
2. 唐と結んで、朝鮮半島を初めて統一するための軍事的な支援を日本に求めた
3. 大和政権に対して、魏志倭人伝に記されたような金印を授与して冊封関係を結んだ
4. 日本に鉄資源を供給することを主な目的として、九州北部に軍事拠点を置いた
- 問3 大和政権が朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ人々を厚遇し、積極的に組織へ組み込んだ理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 新潟県公立入試 類似)
1. 狩猟採集中心の生活から、初めて稲作を中心とする社会へと移行させる必要があったため
2. 遣唐使を派遣する代わりに、大陸の役人を招いて日本の政治制度をすべて中国風に改めるため
3. 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため
4. 地方の豪族が持っていた鉄器の製造技術を独占し、天皇の権威を否定させるため
- 問4 5世紀頃、大陸から日本へ移住した人々によって伝えられた技術のうち、それまでの赤褐色の土器とは異なり、穴窯を用いて高温で焼かれた硬い灰色の土器を何と呼びますか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
1. 弥生土器 2. 土師器 3. 須恵器 4. 縄文土器
- 問5 5世紀前半に近畿地方を中心として大型の前方後円墳が建設され、5世紀後半には九州の熊本県江田船山古墳と関東の埼玉県稲荷山古墳の双方から同じ大王の名が刻まれた鉄剣・鉄刀が出土しました。この歴史的出来事から読み取れる内容として最も適切なものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。 (2025年 宮崎県公立入試 類似)
1. 邪馬台国の女王が中国の魏に使いを送り自らの支配権を認めさせたこと
2. 九州地方の首長が独力で関東地方まで直接支配していたこと
3. 東日本を中心に前方後円墳が造られ政治的統一が完成したこと
4. 近畿地方を中心とする王権の勢力が九州から関東にまで拡大していたこと
- 問6 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼は、中国の魏へ使いを送り「親魏倭王」の称号を授かりました。このように、当時の倭の勢力が中国の王朝へ朝貢を行った政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 遣唐使を停止したことによる文化的な遅れを取り戻すため
2. 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため
3. 幕府が定めた禁教政策を東アジア全域に広めるための協力を仰ぐため
4. キリスト教の布教を阻止するために、中国からの軍事支援を取り付けるため
- 問7 日本最大級の規模を誇る前方後円墳である大仙古墳（大山古墳）が位置する場所として正しいものはどれですか。日本全国をいくつかの地域に分けた際、現在の大阪府堺市が含まれる地方の名称を選択しなさい。 (2024年 茨城県公立入試 類似)
1. 九州地方 2. 東北地方 3. 関東地方 4. 近畿地方
- 問8 3世紀後半から6世紀にかけて、北は東北地方から南は九州地方まで、日本列島の広範囲にわたって鍵穴のような独特な形をした巨大な墓が築造されました。このような墓が各地に共通して造られた背景として、当時の政治状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
1. 大和地方の人口が急激に増加したため、有力な豪族が新天地を求めて東北や九州へ集団移住した際の住居の跡地である。
2. ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。
3. 仏教の伝来とともに、日本全国の豪族が共通の宗教儀礼を行うための寺院の土台として、同じ形状で設計された。
4. 大陸から渡来した人々が、最新の土木技術を日本各地の民衆に広めるための記念碑として、公共事業の一環で築造した。
- 問9 紀元1世紀から17世紀までの東アジアにおける日本の対外関係をまとめた年表において、最も古い時期に記される「後漢への朝貢」に関連する問いです。当時の倭の奴国の王が中国の皇帝から授かったとされる、現在の福岡県志賀島で出土した品物はどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 「日出処天子」と記された国書 2. 「漢委奴国王」と刻まれた金印 3. 勘合貿易で用いられた割符 4. 「親魏倭王」と刻まれた金印
- 問10 6世紀の古墳時代に、朝鮮半島の百済から日本へ仏教が公式に伝えられた際、経典や仏像とともに日本へ同時にもたらされたものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
1. 稲作の技術とそれに伴う青銅器の製造法 2. 銅鐸を用いた祭祀の習慣や青銅器文化 3. 寺院建築や彫刻などの高度な技術 4. 磨製石器の製作技術と大規模な環濠集落
- 問11 4世紀ごろ、近畿地方の有力な豪族たちが中心となって組織した大和政権において、各地の豪族を従えていた最高権力者の称号は、当時何と呼ばれていましたか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 大王（おおきみ） 2. 將軍 3. 天皇 4. 執権
- 問12 5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
1. 七支刀と呼ばれ、百済の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している
2. 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用方法を儀礼的に示している
3. 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている
4. 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している
- 問13 5世紀に「倭の五王」が中国の南朝へ繰り返し使者を送り、朝貢を行った背景や目的についての説明として、最も適切なものを選択してください。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。
2. 日本独自の元号を定めるにあたり、中国の皇帝から許可を得ることで、東アジアにおける地位を確立しようとしたため。
3. 冠位十二階や憲法十七条などの新しい制度を導入するため、先進的な政治体制を直接学ぶ官僚を派遣する必要があったため。
4. 白村江の戦いでの敗北を受け、唐や新羅による日本侵攻を防ぐために、中国との友好関係を急いで構築する必要があったため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大仙古墳（世界文化遺産）	5世紀の古墳時代中期に築造された大仙古墳は、全長約486メートルを誇る日本最大の古墳です。その圧倒的な規模と独特な形状は、当時のヤマト政権の強力な支配力を示すものと考えられています。2019年には、周辺古墳とともに「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界文化遺産に登録されました。
問2	答え 1 大和政権と結びつき、仏教や儒教などの大陸文化を伝える窓口となった	百済は朝鮮半島における軍事的緊張の中で大和政権と結びつき、その見返りとして先進的な技術や文化を日本へ伝えました。特に6世紀の聖明王による仏教の伝来は、その後の飛鳥文化の発展につながる歴史的な転換点となりました。他の選択肢にある半島統一は新羅の役割であり、金印の授与は中国の王朝との関係です。
問3	答え 3 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため	大和政権は、渡来人が持つ先進的な技術（鉄器製作、灌漑などの土木、織物）や知識（漢字による記録、儒教、仏教）を独占・管理することで、他の有力豪族に対して優位に立とうとしました。これらの技術は、巨大古墳の造営や農地の拡大、組織的な統治に欠かせないものでした。
問4	答え 3 須恵器	渡来人は日常生活に密着した技術も多く伝播させました。それまで日本で作られていた土器よりも高い温度で焼成する技術や、ろくろを使用する技法が伝わったことで、より実用的で耐久性の高い器が生産されるようになりました。
問5	答え 4 近畿地方を中心とする王権の勢力が九州から関東にまで拡大していたこと	近畿地方の大型前方後円墳の存在に加え、遠く離れた熊本県と埼玉県から同一の大王（ワカタケル大王）の名を刻んだ鉄剣が出土したことは、近畿を中心とするヤマト王権の勢力範囲が九州から関東まで広がっていたことを物語っています。
問6	答え 2 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため	3世紀の日本はまだ統一国家ではなく、多くの小国が対立する状況（倭国大乱など）にありました。卑弥呼は中国の強大な王朝である「魏」から称号や金印、銅鏡などを授かることで、その権威を国内に示し、自らの統治能力や地位をより強固なものにしようとしました。これは外交を利用した国内統治の強化という側面を持っています。
問7	答え 4 近畿地方	5世紀頃、現在の大阪府や奈良県などを含む近畿地方を中心に、巨大な前方後円墳が数多く造られました。大仙古墳は、当時の大和政権（ヤマト王権）の首長である大王の権力を象徴するものであり、現在の大阪府堺市に位置しています。
問8	答え 2 ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。	前方後円墳という特定の形状が日本各地に広がった事実は、当時のヤマト王権を中心とした政治的な連合が広範囲に及んでいたことを示しています。各地の有力な豪族は、ヤマト王権の支配体制に組み込まれることで、その象徴である前方後円墳を築く許可を得て、自身の支配権を正当化しました。渡来人の技術は築造に関わっていますが、目的は公共事業ではありません。また、古墳は住居ではなく墓であり、仏教伝来以前の文化です。
問9	答え 2 「漢委奴国王」と刻まれた金印	紀元1世紀（西暦57年）、倭の奴国の王は中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授けられました。これは、当時の日本の小国が中国の皇帝に朝貢することで、自らの支配の正当性を認めさせようとした初期の事例です。この金印には「漢委奴国王」と刻まれており、江戸時代に志賀島で発見されました。
問10	答え 3 寺院建築や彫刻などの高度な技術	百済から仏教が伝来した際、単に宗教的な教え（経典）や崇拜対象（仏像）が届いただけでなく、それらを安置するための寺院を建てる建築技術や、仏像を造るための彫刻技術といった、当時大陸や朝鮮半島の高度な技術がセットで導入されました。これにより、その後の日本の文化や技術は大きく発展することになりました。
問11	答え 1 大王（おおきみ）	古墳時代の大和政権（ヤマト王権）において、近畿地方を中心とした支配を広げた最高権力者は「大王」と呼ばれました。この称号は、7世紀後半ごろから「天皇」という言葉が定着するまで、中国の王朝との外交や国内の統治において用いられました。将軍や執権は武家政権の役職であり、時代の異なる用語です。
問12	答え 3 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている	古墳時代中期にあたる5世紀には、高句麗の南下による朝鮮半島の緊張状態が倭（日本）にも波及していました。古墳に副葬された武人などの人物埴輪は、当時の武具の構造を正確に伝えており、埋葬された豪族の軍事的な権威を誇示したり、死者の霊を守ったりする目的があったと考えられています。
問13	答え 1 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。	ヤマト王権の王たちは、中国の皇帝から「安東大將軍」などの高い称号を得ることで、日本国内における絶対的な権威を確立しようとしました。また、当時の朝鮮半島では高句麗や新羅、百済が対立しており、その中で軍事的な優位性を国際的に承認させる狙いもありました。